

2023年1月実績概要（メモ）

（2023. 2. 24）

エチレン、誘導品とも生産調整局面の中、対前月では増産品目が見られるも、前年に対しては多くで減産が継続中。

1. 生産動向

イ) エチレン 482, 600トン

前月比 + 0.2% (+ 900トン)

前年同月比 ▲ 4.8% (▲ 24, 400トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	—	—
定修要因等	—	+ 9.9%
能力増減	—	—
稼働率変動	+ 0.2%	▲ 14.7%
生産増減率	+ 0.2%	▲ 4.8%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月 81.4% → 当月 81.5% ← 前年同月 94.1%

定修プラント：前月 なし → 当月 なし ← 前年同月 1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、稼働率要因から LDPE、HDPE、PP、PS、ベンゼンなどの10品目がプラス。MMA モノマー、EO、EG、SBR、BR などの7品目はマイナスとなった。

前年比は、稼働率要因を主因に PS、SM、塩ビ樹脂、MMA モノマー、EO、EG、SBR、BR、ベンゼン、トルエンなどの16品目がマイナス。アセトアルデヒドのみはプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、主として稼働率要因から LDPE、HDPE、PP、PS ともにプラスとなった。

前年比は、前年は、定修入りがあった LDPE、PP をはじめ、HDPE、PS でも近年では低めの生産水準にあった。当年はこれを更に下回り LDPE、PP は微減に留まるも、HDPE、PS はマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

電力料金の上昇や食料品類での値上げが続く中、家計消費支出で減少が見られるとともに、国内の生産活動自体も前年末から一進一退を続けており、生産のマインドとしても弱気の面が優成となっている。

樹脂の出荷は、前月比は、年末年始のユーザー側の休日数の差もあり、LDPE、HDPE、PP、PS ともにマイナスとなった。

前年比は、4樹脂でマイナスとなり、LDPE、HDPE、PP のほか、PS でも当該月の出荷量としては、近年では低レベルの出荷となった。

分野別の出荷動向でみても、個人消費関連の包材のほか、産業分野向けとも出荷量は減少しており、LDPE はフィルム分野や加工紙、HDPE は中空成形分野やフィルム分野、PP は射出成形分野や繊維分野等の出荷が減少した。また、PS は包装関連用途の減少が大きかった。

ハ) 輸出

前月比は、アジア域内では、中国の旧正月休暇明け後の需要期待があったが、依然として引き合いに強さは見られていない。前月比は、PS が前月に輸出が減少したこともあり、当月はプラスとなったが、LDPE、HDPE、PP はマイナス。前年比では4樹脂ともにマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して LDPE、HDPE、PP、PS ともに増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPE で上昇、PS は前月並み、PP は低下した。在庫水準としては、LDPE、HDPE は依然高め、PP、PS は適正に向かいつつある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		12月末	1月末
LDPE	+ 29, 200	3.7	4.2
HDPE	+ 16, 900	4.2	4.4
P P	+ 37, 100	3.5	3.4
P S	+ 3, 800	2.2	2.2